

関西外大言語研究会会報

第12号

第12回例会を開催しますので、ご案内いたします。多数ご参加下さい。

第12回例会プログラム

日 時: 2002年6月13日(木)午後1時30分~午後3時30分
場 所: 関西外国語大学

発 表 者: 古賀 弘毅 (関西外国語大学)
発表題目: 制約に基づく格の文法: 「補語述語復元」現象

発 表 者: 田代 直也 (関西外国語大学)
発表題目: ドイツ結合価理論の統語論的操作テストの
ハンガリー語動詞への応用について

発表要旨

制約に基づく格の文法: 「補語述語復元」現象
古賀 弘毅

本論文は、日本語では、格句が、それを主語や目的語として要求すると言われている動詞などと共起しなくても起こる現象(「補語述語復元」現象)によって、既存の英語の文法 Sag 1997 の日本語への応用(たとえば、Manning, Sag, and Iida 1998)を反証し、Koga 2000 での現象の分析を提案する。既存の文法は、格句の意味は、格句を含む直属のより大きな構成素の意味に、その格句の主要辞である動詞などの統語上の結合価の仕様を通じて、反映されると仮定し、Koga 2000 はそう仮定していないところが鍵である。

ドイツ結合価理論の統語論的操作テストの
ハンガリー語動詞への応用について
田代 直也

ドイツ結合価理論の代表的論者たち(Helbig ら)は、ドイツ語の動詞の結合価辞典の編纂や結合価文法の研究に際して、各種の統語論的操作テストを用いてきた。その数はこれまでのところ13種類に上る。しかし、これらの有効性の度合いは様々である。また、ドイツ語以外の言語には、必ずしも常に適用可能という訳ではない。ハンガリー語の動詞の結合価を分類するにあたって、それらの妥当性を検討してみた。